

〔編集後記〕

第27号(2)をお届けします。年度内にはおさまって、やれやれというところですよ。

本号には若い方々の力作がそろいました。期せずして小特集——日本論となりました4編をはじめ、他の2編、研究ノート、書評も若さあふれる布陣となっています。熟年パワーの目立つ最近のジャーナルのなかで、新春を飾るにふさわしいものになったかと存じます。

本誌と平行して研究所で発行することになりました Working Paper Series の方も順調で、年2回の刊行の本ジャーナルのいささかスピードに欠けるところを補強しています。関係諸兄姉の御健筆を期待しています。それにしても年2回といえば正月と藪入りみたいですので、是非ご予算をいただいてせめて年3回の刊行にして頂きたいものです。そのためにも皆様の原稿が押せ押せで列をなすことが必要で、大いにご研究の原稿化に力を入れていただきますようお願いいたします。

数のことばかり申しましたが、ヴァリエティに富んだ編集をさせて頂きたいと念じています。そのためには、例えば、シンポジウム、対談、今はやりのティーチ・インなど、形式にとらわれずにご企画をいただき、それを原稿におこして Working Paper にし、さらに手を入れて本ジャーナルに載せて頂く、というのも楽しいことでありましょう。反響のない書きばなしの論文ばかり載せている雑誌では、まるでなにかの記念文集みたいで活力がみられません。皆様の研究の共鳴板としてのジャーナルにふさわしいご企画を待っております。

(木村憲二 記)